

スが神の子であることを公に言い表す人はだれでも、神がその人の内にとどまってくださり、その人も神の内にとどまります。16わたしたちは、わたしたちに対する神の愛を知り、また信じています。

神は愛です。愛にとどまる人は、神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってください。17こうして、愛がわたしたちの内になうされているので、裁きの日に確信を持つことができます。この世でわたしたちも、イエスのようであるからです。18愛には恐れがない。完全な愛は恐れを締め出します。なぜなら、恐れは罰を伴い、恐れる者には愛が全うされていないからです。19わたしたちが愛するのは、神がまずわたしたちを愛してくださったからです。20「神を愛している」と言いながら兄弟を憎む者がいれば、それは偽り者です。目に見える兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することができません。21神を愛する人は、兄弟をも愛すべきです。これが、神から受けた掟です。

【春期キリスト教教育強調週間の案内】2018年5月29日（火）10時40分

次回の大学礼拝は、2018年度春期キリスト教教育強調週間です。

聖書：マルコ福音書 10 章 46-52 節

主題：「あなたの真実があなたの信実になる」

講師：安部一徳先生（本学酪農学科出身）

日本基督教団北見望ヶ丘教会牧師、北見のぞみ幼稚園園長、

今回の強調週間で安部先生は「非認知能力」についてお話しくださいます。先生は非認知能力を「子どもの心の根っこを育てる」とことと受け止めておられますが、それは本学で出会った故井上錦次先生（農場長）からかけられた言葉の影響があったそうです。安部先生は学生時代に井上先生から「人間机上の学びだけではだめだ。心を耕しなさい。そして教会に来なさい」との言葉をかけられ、その言葉が先生自身の人生を変え、今も心の中に鳴り響いているとのこと。現在の教育現場では、IQなどによって数値化できる「認知能力」に加えて、EQなどによって表される「非認知能力」も重視されるようになってきています。そして、その波は大学教育にも及んでいます。安部先生を通して「心の根っこ」をもう一度見つめ直すときになればと願っています。1年生だけではなく、全学年の学生と教職員のみなさんのご出席をお待ちしています。なお、礼拝後に茶話会を行いますので、講師を囲んでゆっくと語りてください。

【前回の大学礼拝】2018年5月15日（火）10時40分

学生 362名 教職員ほか 12名 合計 374名

【大学礼拝週報】 2018年度 第6号（前学期第6号）

2018年5月22日（火）午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

《大学礼拝》

司 式 小林昭博（宗教主任）
奏 楽 佐藤理恵（野幌教会会員）
讃美指導 相原晴伴（循環農学類教員）

前 奏 「主をほめまつれ おおわが魂よ」（アーベル作曲）

讃美歌 讃美歌第二編 167番（われをも救いし）

聖書 ヨハネの手紙一 4章7-21節

祈り

さんび

酪農学園大学聖歌隊

奨励 「愛されること／愛すること」 小林昭博
（循環農学類キリスト教応用倫理学研究室准教授）

報告

讃美歌 讃美歌第二編 157番（この世のなみかぜさわぎ）

後奏 「たたえよ、聖霊を」（ハード作曲）

【本日の聖書】ヨハネの手紙一 4章7-21節

7 愛する者たち、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです。8 愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです。9 神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きるようになるためです。ここに、神の愛がわたしたちの内を示されました。10 わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。11 愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。12 いまだかつて神を見た者はいません。わたしたちが互いに愛し合うならば、神はわたしたちの内にとどまってくださり、神の愛がわたしたちの内になうされているのです。

13 神はわたしたちに、御自分の霊を分け与えてくださいました。このことから、わたしたちが神の内にとどまり、神もわたしたちの内にとどまってくださることが分かります。14 わたしたちはまた、御父が御子を世の救い主として遣わされたことを見、またそのことを証ししています。15 イエ